

〔発言者〕 ヨハネ・パウロⅡ世

〔発言年月日〕 1981年

〔生年、被爆地、職業など〕 1920年生まれ。非被爆者、世界宗教であるカトリックの最高位の聖職者。

〔内容〕

戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。この広島町、この平和記念堂ほど強烈に、この真理を世界に訴えている場所はほかにありません。

もはや切っても切れない対をなしている二つの町、日本の二つの町、広島と長崎は、〈人間は信じられないほどの破壊ができる〉ということの証として、存在する悲運を担った、世界に類のない町です。

この二つの町は、〈戦争こそ、平和な世界をつくらうとする人間の努力を、いっさい無にする〉と、将来の世代に向かって警告しつづける、現代にまたとない町として、永久にその名をとどめることでしょう。

〔注〕

歴代のローマ教皇として初めて日本を訪れたヨハネ・パウロⅡ世が広島市の平和記念公園で行った「平和アピール」からの抜粋。この文章の後には、「過去をふり返ることは将来に対する責任を担うことです」という言葉が繰り返し登場する。このアピールは、カトリック教界にとどまらず、日本全体の核問題を含む戦争に対する姿勢に大きなインパクトを与えることとなった。

(『教皇訪日公式記録 ヨハネ・パウロⅡ世』主婦の友社編、主婦の友社、1981年所収)